

ダム湖斜面の裸地対策を検討

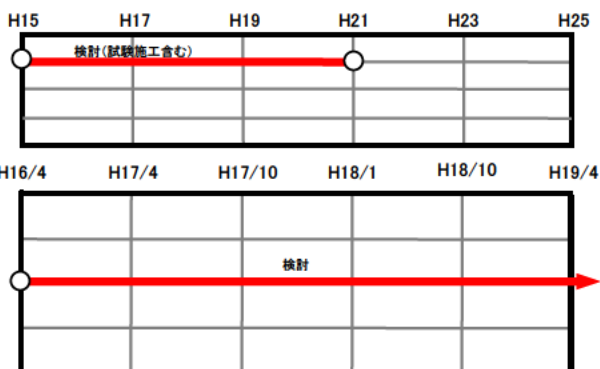
●具体的な整備内容

ダム貯水池の斜面における水位変動域の裸地対策としての緑化について検討するとともに、その結果を踏まえて試験施工を実施する。

●事業費

●スケジュール

— 検討 — 委員会 — 実施



●事業の数量・諸元等

●整備効果

豊かな自然に包まれたダム湖は、環境・観光資源として広く一般市民の憩いの場となっている。しかし、水位低下時又は制限水位方式によるダムでは治水目的により出水期間とそれ以外において水位変動が生じるため貯水池の斜面に裸地が発生している。そこで、水位低下によって露出した裸地部の対策を図る事は、景観保全・崩落防止にも繋がり、ダム湖への土砂流入を防ぐ効果も期待される。

又、緑化対策においては植物の枯葉などにより水質の富栄養化への影響が指摘されているため試験的に対策を実施した箇所でのモニタリングを行い、今後の解決策を検討する。

●提案理由(代替案含む)

多目的ダムでは、常時満水位と、洪水期制限水位に水位変動差がある。

○高山ダム 水位差18m。常時満水位(EL.135m)、洪水期制限水位(EL.117m)

○一庫ダム 水位差13.7m。常時満水位(EL.149m)、洪水期制限水位(EL.135.3m)

洪水期においては、裸地が広がり景観を阻害していることから、裸地の緑化について試験施工について検討するものである。

また高山ダムでは、過去に一部裸地について緑化の試験施工を実施したことから、その結果のモニタリングを実施しながら、検討を行うものである。

天ヶ瀬ダムでは毎日の発電に伴う揚水時において水位差が3~4mに達するため、もっとも効果的な裸地対策の検討を行う。

(代替案)

- ・試験施工のモニタリングを実施し、有効な手法について検討していく。
- ・その他、水位変動の少ない運用(水位移行期の水位変動を出来るだけ緩やかにする操作)の検討も実施する。

ダム湖斜面の裸地対策を検討

委員会等からの意見

ダム湖法面の裸地対策の検討は、慎重に進めるべきである。

水位変動幅の大きい高山ダムなどの法面の裸地緑化については、植生の安定的繁茂が困難と考えられる。法面の崩壊防止を目的とする場合は代替案を検討するべきである。美観上の観点のみからの施工は不要とする意見もあるので、対策事業の必要性和効果について十分な説得力を持たせるべきである。

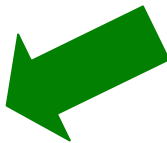
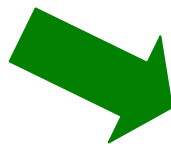
実施するとしても品種選定は外来種を用いるべきではない。これまでの試験実施の結果の検証・公表と、それらの情報に基づく冷静な検討が必要である。

進捗状況

高山ダム貯水池裸地部分において、緑化の試験施工を実施。

進捗状況

状況写真(ない場合はイメージ図あるいは図面)



今後の見通し

モニタリングを継続するとともに緑化の試験施工を実施予定。